

第5単元 小数のわり算①

問題番号	配点	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	40 (各5)	① 9.2    ② 4 ③ 0.8    ④ 0.65 ⑤ 6.6    ⑥ 27 ⑦ 29.2   ⑧ 4.25	〔知技〕小数の除法の筆算ができる。	商の小数点の位置に注意をさせる。なぜ、その位置になるのかを形式的に理解させるのではなく、原理に基づいて理解させるようにする。
②	10	イ、ウ (完答、順不同)	〔知技〕商と除数の大小関係を理解している。	商と除数の関係を、数直線図を活用するなどしてつかませ、「商はわられる数より小さくなる」という思いこみを修正する。
③	10 (各5)	式 $7.2 \div 1.8 = 4$ 答 4倍	〔知技〕基準量と比較量の関係を理解し、除法の計算ができる。	数直線図から、 $1.8 \times \square = 7.2$ という乗法の式を立ててから、除法につなげると理解しやすい。
④	10 (各5)	式 $280 \div 3.5 = 80$ 答 80円	〔知技〕場面に応じた立式ができる。問題を解決することができる。	立式ができなかった児童には、整数の場合に帰着したり、数直線図を活用したりするなどして、どのような式になるかを考えさせるとよい。また、計算が正しくできなかった児童には、小数点の位置に気をつけることをおさえる。
⑤	10 (各5)	式 $2 \div 0.3 = 6$ あまり0.2 答 6個に入れることができ、0.2Lあまる。		
⑥	20 (各10)	式 $1.6 \div 0.6 = 2.66\cdots$ 答 約2.7kg		

第5単元 小数のわり算②

問題番号	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	① $240 \div 1.5$ ( $240 \div 1.5 = 160$ ) ② (例)・1mのねだんを□円とすると、 $\square \times 1.5 = 240$ になる。□を求めるので、 $240 \div 1.5$ になる。 ・整数のときと同じように、1mのねだんは、 $\text{代金} \div \text{買った長さ}$ で求められるから。	〔思判表〕立式の根拠を数直線図やことばの式を用いて説明している。	1にあたる大きさ(基準量)を求める考え方は難しさを感じる児童がいるので、数直線図を用いたり、はじめに乗法の式に表してから、除法で求めたりすると理解しやすい。
②	① 10            ② 10 ③ 21           ④ 3.6	〔思判表〕被除数、除数が小数のときの除法の計算のしかたを筋道をたてて説明している。	小数を整数に直すために、「被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商はかわらない」という除法の性質を使っていることを理解させる。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	6～5問	4～3問	2～0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。